

日本メディックス製品を安全・安心にご使用いただくためのお願い

平素は日本メディックス製品をご愛顧賜り、厚くお礼申し上げます。

この「お願い」は、弊社製品による「火傷（やけど）」事故の防止を目的としています。理学療法機器においても、間違った使用方法や、お手入れを怠った場合など、高い頻度で火傷が発生する恐れがあります。過去に報告のありました、火傷の種類、症状、対処法等をまとめましたのでご確認ください。

安全にお使いいただくために、「始業前点検」時の異常や「使用中の異常」を確認されましたら直ちにご使用を中止し、弊社までご連絡をお願いいたします。

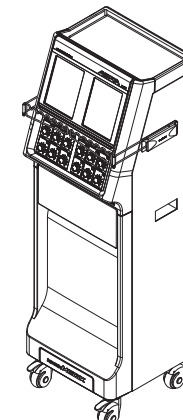
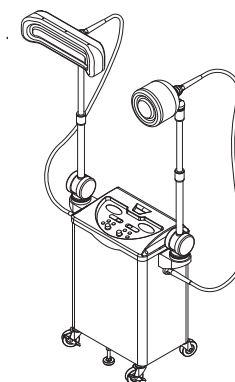
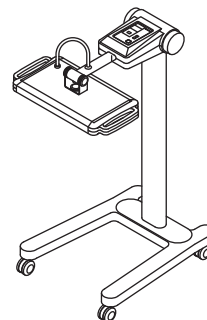
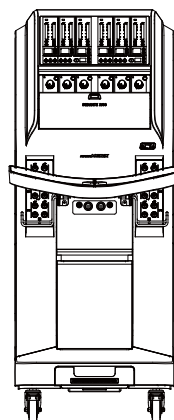
※「火傷（やけど）」とは

外傷のひとつで、熱で皮膚の組織が破壊され、本来もっているべき防御機能（免疫）が失われてしまった状態のことです。火傷の程度は、皮膚に受けた熱の温度と熱を受けた時間によって決まり、高温でも瞬間的に受けた熱は比較的浅い傷害にとどまりますが、低温でも長い時間受け続けると深い傷害になります。

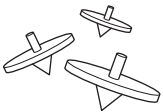
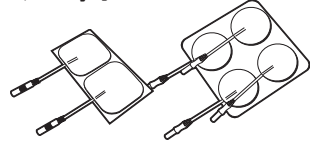
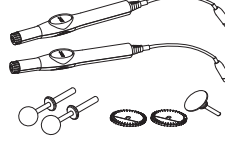
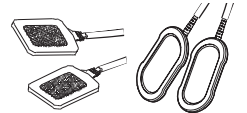
○医療機器に係る安全管理のために

医療法にて、医療機器安全管理責任者の配置が求められており、医療機器全てに係る安全管理のための体制を確保しなければなりません。

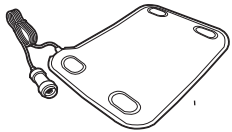
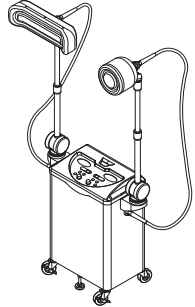
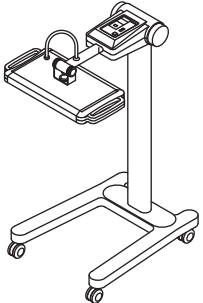
医療機器の安全使用・保守点検については、添付文書・取扱説明書をご確認ください。



1. 理学療法機器の導子・付属品類

種 類（一例）	症 状	火 傷 の 原 因	対 処
金属電極（SSP） 	皮膚や粘膜に損傷を起こし、水疱や発赤ができヒリヒリする痛みがあります。	清掃せずに長期間使用すると、電極表面の腐食又は、皮脂やゴミ等の付着により電流が一部分に集中して流れることにより火傷を発症します。電流密度の集中により皮膚の組織が破壊され火傷となります。	SSP電極は表面が銀メッキを施しており、日々のお手入れを怠りますと黒く変色し導電性が損なわれます。使用前に金属電極の表面をご確認し、汚れを除去してください。除去方法については、取扱説明書をご確認ください。
スポンジ 	皮膚や粘膜に損傷を起こし、水疱や発赤ができヒリヒリする痛みがあります。	スポンジ自体には導電性は無く、保水する事により導電性を有します。乾き気味なスポンジの使用で、出力を必要以上に上げてしまい治療中の発汗で、電流が流れすぎてしまい皮膚の組織が破壊され火傷を発症します。	ご使用前にスポンジの保水状態を確かめてからご使用ください。
吸引導子 	※うっ血 水疱や発赤ができヒリヒリする痛みがあります。「火傷」の症状に酷似しているため「火傷」と診断されます。	吸引圧が高い場合や吸引時間が長時間に及ぶと、水疱や発赤が発症します。皮膚に与えるダメージは吸引圧の強さ、時間、お客さまの肌の状況により変わりますが、吸引過多による影響でカップの内径と同じ大きさの水疱や発赤ができます。	特に高齢者や女性、肌の弱い方に起こる傾向です。吸引圧の設定は、導子が吸着出来る最低限の設定とし、治療終了後速やかに吸引導子を外すことをお勧めします。
ゲル導子 	皮膚や粘膜に損傷を起こし、水疱や発赤ができヒリヒリする痛みがあります。	複数回のご使用で粘着面に皮脂、ゴミ等の付着により粘着力が弱くなり人体との接触状態が悪化し、電流が一部分に集中して流れ、火傷を発症します。	ご使用前にゲル表面の汚れを除去し、粘着力を指先等で確認してからご使用ください。ゲル導子は消耗品のため、粘着力が低下した場合は、交換してください。
ボール電極・ディスク電極 	皮膚や粘膜に損傷を起こし、水疱や発赤ができヒリヒリする痛みがあります。	ジェル又は保水を怠ると人体と電極間の接触が不安定になり、通電したり、通電しなかったりして、皮膚や粘膜に損傷を起こし痛みや火傷を発症します。	ボール電極は、表面の汚れを除去し治療部位にジェルをまんべんなく塗布してからご使用ください。ディスク電極は、金属表面の汚れを除去しスポンジの保水状態を確かめてからご使用ください。
冷感緩和機能付導子 フレアパッド導子 / ホットスパイク導子 	皮膚や粘膜に損傷を起こし、水疱や発赤ができヒリヒリする痛みがあります。	表面が乾き気味なスポンジの使用により、出力を必要以上に高めに設定してしまった場合、治療中の発汗によって電流が流れすぎてしまい皮膚の組織が破壊され火傷を発症します。冷感緩和機能付導子は、心地よいと感じる温度を与える導子のため、非常に発汗しやすいのでご注意ください。	導電スポンジは導電性を有するスポンジですが、スポンジ自体には保水機能が無い為、毎回使用時に水の塗布を必要とします。スポンジに十分な水の塗布がされているかを、確かめてからご使用ください。
 SHS 導子、 牽引器ベッド 内蔵型腰用ホットパック、 頸部用ホットパックなど	※「低温火傷」 少し赤く、ヒリヒリする痛みがあります。1日たつと水ぶくれができてグジュグジュしてきます。	理学療法機器においての「低温火傷」とは、心地よいと感じる温度（40℃程度）を発生させるホットパックなどに長時間皮膚が接することで細胞が変化して発症します。また、予熱時に導子が重なってしまった状態ですと治療開始時に温度が異常に高くなり火傷を起こします。	“30 分を超える同一部位への連続使用”はお控えください。特に高齢者、子ども、糖尿病患者などは、火傷をしたことに気づかず重症となる傾向があります。

2. 理学療法機器

種類（一例）	症 状	火傷の原因	対 処
乾式ホットパック 	温熱効果による治療を目的とした機器のため、火傷は「温熱熱傷」と診断されます。発赤、ヒリヒリする痛みを発症します。患者さまにとって過度な治療時間となった場合、皮膚の深層部分を損傷し、水ぶくれ、発赤、びらん等の強い痛みを発症します。	人体とホットパックの接触部にて、熱により皮膚や粘膜などが損傷します。皮膚の状態にもよりますが、過度な治療時間でも損傷します。 ※JIS（日本工業規格）により温度制限（75℃以下）、治療時間制限（30 分以内）と示されています。	患者さまの体調、皮膚の状態、使用できない患者さまの制約を確認し、適切な温度、治療時間にて使用してください。強い折曲げ、身体の下に敷く、上に物を置く事は厳禁です。
※併用治療禁止 導子の上に乾式ホットパックや湿式ホットパック等を乗せて加温すると、異常な発汗で電流が流れすぎてしまい、皮膚の組織が破壊され火傷を発症する事例がおきております。文献等で併用で効能効果があると記載されておりますが、併用によるやけどの事故が発生していることからメーカーとしては、併用治療を禁止いたします。ご理解の程お願いいたします。			
マイクロ波治療器 	皮下組織を損傷し、発赤等の痛みを発症します。患者さまにとって過度な照射時間となった場合、皮下組織を損傷し、水ぶくれ、発赤、びらん等の強い痛みを発症します。	マイクロ波の照射により体内の分子を振動させ分子同士の摩擦熱（ジュール熱）で温熱治療をする機器の為、「火傷」は照射部位の皮下にて発症し、熱により人体組織が損傷します。	患者さまの体調、照射部位の状態、使用できない患者さまの制約、使用方法・環境の確認を行ない、適切な出力、治療時間にてご使用ください。 禁止事項の一例 ・インプラント装着者 ・電子機器保持者（ペースメーカー等） ・金属素材（金糸、銀糸）の衣服
超音波治療器 	1w/cm ² 以上の出力で治療をおこなった場合、皮下組織を損傷し、発赤等の痛みを発症します。患者さまにとって過度な照射時間となった場合、皮下組織を損傷し、水ぶくれ、発赤、びらん等の強い痛みを発症します。	アプリケータ（振動子）を人体に接触し、超音波振動により体内の分子を振動させ分子同士の摩擦熱（ジュール熱）で温熱治療をする機器の為、「火傷」は治療部位の皮下にて発症します。また、ジェルの塗布がない場合や不均等な場合、超音波振動が一部分に集中し火傷を発症します。	患者さまの体調、治療部位の状態、使用できない患者さまの制約、使用方法・環境の確認を行ない、適切な出力、治療時間にて、ジェルを必ず塗布して使用ください。
赤外線治療器 	患者さまにとって過度な出力となった場合、表皮組織を損傷し、発赤等のヒリヒリする痛みを発症します。患者さまにとって過度な照射時間となった場合、表皮～真皮組織を損傷し、発赤、水ぶくれ等、強い痛みを発症します。	赤外線の治療部位への照射により、部位を経皮的に温めて治療をする機器の為、「火傷」は照射部位の表皮より発症し、熱により人体組織が損傷した状態です。また、アプリケータと治療部位の距離は近すぎると、同様に火傷を発症する場合があります。（距離の目安は約 30 cmです。）	患者さまの体調、照射部位の状態、使用できない患者さまの制約、使用方法・環境の確認をおこない、適切な出力、治療時間にてご使用ください。アプリケータとの距離を厳守してください。 注意事項の一例 ・使い捨てカイロや金属類は、体から外してください。 ・照射距離は約 30 cm 離してください。

裏面もご確認ください

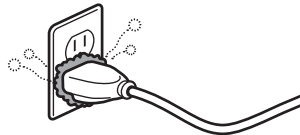
電気火災を防止するために

重大事故に繋がる恐れがある下記事象にご注意ください。

〔トラッキング〕

現象：コンセントやテーブルタップに長期間、電源プラグを差し込んでいると、コンセントとプラグとの隙間に徐々にほこりが溜まります。このほこりが気温と温度差により湿気を呼ぶことによって、プラグ両極間でショート状態（火花放電）が起こりますと、絶縁状態が悪くなり、やがて発熱し発火します。

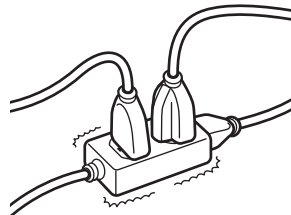
対処：電源プラグ、コンセントをこまめに確認して、清掃をしてください。（差し込み状態を確認し、乾いた布等にて埃を除去します。）



〔テーブルタップのたこ足配線〕

現象：医療機器が増え、便利なテーブルタップの利用が増えました。テーブルタップなどによるたこ足配線は、指定容量をオーバーして使用すると発熱しやすく、火災の原因になる可能性があります。

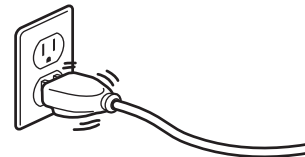
対処：壁面コンセントに直接電源プラグを差し込んでください。



〔グロー現象〕

現象：電気コードの接続部がゆるんだままで電流の断続を繰り返すと、弱い電流でも異常なほどの熱を持って発火することがあります。

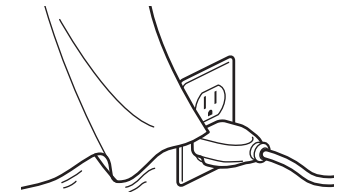
対処：電源プラグとコンセントの差し込みがゆるくなっている場合は、きちんと差し込んでください。差し込みのゆるさが改善しない場合は、電源プラグまたはコンセントのどちらかを交換することをご検討ください。



〔その他の発火現象〕

現象：電源プラグが差し込まれたコンセント付近に燃えやすいもの（カーテン等）がありますと、電源プラグとコンセント間のショート（火花）現象により火災を招く場合があります。

対処：電源プラグが差し込まれたコンセント付近に燃えやすいもの（カーテン等）を置かないでください。



株式会社日本メディックス <https://www.nihonmedix.co.jp/>

【本社】270-0922 千葉県柏市大島田2丁目5番地1 TEL：04-7193-2220（代）

お気づきの点や気になる点などございましたら、右記より最寄りの支店・営業所までご連絡ください。▶

